

対象・応募資格 日時・期間 場所 内容 定員・募集人数
費用 講師 持ち物・提出書類 申込・申請 その他 問合せ先



ファミリー・サポート・センターとは

「子育てを手助けしてほしい人」を「子育てを手助けできる人」が支援する会員制の組織です。「少しの間子どもを見てほしい」「保育園のお迎えと預かりを頼みたい」ときなどに利用できます。詳しくはファミリー・サポート・センター(☎57・5007/総合福祉センター内)へ。

親に恐怖を感じる子どもは、気に入られるように、親の顔色を見て行動するようになります。また、親に心配事を打ち明けられなくなり、いじめや非行など大きな問題に発展する可能性もあります。



ポイント2
子どもに恐怖心を
持たせない

育児の負担を一人で抱え込まず、家族と分担してください。ファミリー・サポート・センターなどの支援サービスの利用も検討しましょう。子育ての苦労を気軽に話せる友だちを作るのも大切です。

ポイント3
親自身が
SOSを出す



ポイント4
イライラしたら
クールダウン

子どもが言うことを聞いてくれず、イライラすることは誰にでもあることです。疲れたり、ストレスを抱え



出典/厚生労働省「健やか親子21」

子どもに「イヤだ」と言われたら、戸惑うこともあるでしょう。2〜3歳の子どもの「イヤ」は自我の芽生えであり、成長の証です。子どもの考えを引き出し、必要に応じて手助けしながら、子どもの言い分を気長に聞きましょう。「わがままな子にならないように」と親は指示的に対応してしまってもいけません。子どもの成長だと思い、子どもの意思を後押ししてください。

ポイント5
子どもの気持ちと行動を
分けて考え、育ちを応援

たりすると、子どものちょっとした行動でイライラが爆発してしまうことがあります。イライラを解消するために「深呼吸する」「数を数える」「窓を開けて風に当たる」など、自分なりのちょっとしたクールダウン方法を見つけましょう。

いち早く連絡を

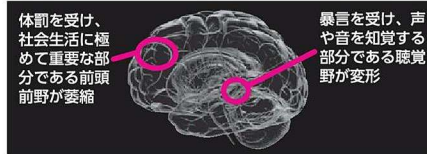
児童相談所全国共通ダイヤル
☎189

西三河児童・障害者相談センター
☎0564・27・2779 (土・日曜日、祝日を除く 午前8時45分～午後5時30分)

市家庭児童支援課
☎56・3113 (土・日曜日、祝日を除く 午前8時30分～午後5時15分)

脳の発達に深刻な影響

子どものころにつらい経験をした人は、脳にさまざまな変化が起きていると報告されています。体罰や暴言は目に見えないダメージを子どもに与えています。



体罰を受け、社会生活に極めて重要な部分である前頭前野が萎縮

暴言を受け、声や音を知覚する部分である聴覚野が変形

提供/福井大学 友田明美教授

子どものサイン

虐待を受けている子どもは、さまざまな形でサインを出しています。次のような様子が繰り返しある場合は、特に注意を払い、各相談機関に連絡してください。

- 傷やあざが普通はないようなところにある
 - 繰り返しけがをしていて、新しい傷と古い傷が混在している
 - 言葉や発達が遅れている
 - イライラして暴力を振るう
 - 金銭の持ち出しや盗癖がある
 - 保護者を怖がっている
 - 体や服がいつも不潔
 - 生活リズムが乱れている
 - 身体的な接触や接点を極端に嫌がる
 - サイズの合わない服を着ている
 - 虫歯が多く、治療がされていない
- など

愛の鞭 ゼロ口作戦

子どもを健やかに育むために

子育てをしていると、「子どもが言うことを聞いてくれず、イライラすることがあると思います。ついたたいたり、怒鳴ったりしたくなることもあるかもしれません。最初は「愛の鞭(しつけ)」のつもりでもいつの間にか「虐待にエスカレートしてしまう」ともあります。暴言や体罰はしつけではありません。次のポイントを心掛けながら、子どもと向き合しましょう。

☎家庭児童支援課(☎56・3113)



ポイント1
暴言や体罰を
使わない

暴言や体罰はしつけに効果があるように見えますが、恐怖を感じる子どもをコントロールしているだけではありません。子どもの成長の助けにならないばかりか、悪影響を及ぼす場合があります。親が「愛の鞭(しつけ)」と思っても、子どもにとって大人からたたかれることは怖いこと。怒鳴られることで心に大きなダメージを受けることもあります。暴力や暴言は許されるものではありませんし、虐待(エスカレート)してしまう可能性があります。「たたかない」「怒鳴らない」と心に決めて、子どもと接しましょう。

